

令和 3 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書（概要版）

静岡市 市民局 男女共同参画課

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、性別にかかわらず、それぞれの個性と能力を発揮し、家庭、地域、職場などあらゆるところに共に参画し、責任を担いあう社会、『男女共同参画社会』の実現を目指し、「第3次静岡市男女共同参画行動計画」、「静岡市 DV 防止基本計画」及び「静岡市女性活躍推進計画」の三つの計画に基づき施策を推進しています。

令和4年度にこの三つ計画の計画期間が終了するに当たり、次期計画の策定の基礎資料とするため、本調査を実施します。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象 18 歳以上の市民
- (2) 標本数 2,500 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から 18 歳以上の市民を無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送調査・自記式アンケート
- (5) 調査期間 令和3年6月4日(金)～令和3年6月 25 日(金)

3. 回収率

配布数	有効回収数	有効回収率
2,500 票	972 票	38.9%

この冊子の読み方

1. 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入しています。このため百分率の合計が 100%にならないことがあります。
2. 数値やグラフ中の「N」は回答者総数を示し、回答比率はこれを 100%として算出しています。
3. 複数回答をしてもよい設問では、百分率の合計が 100%を超える場合があります。

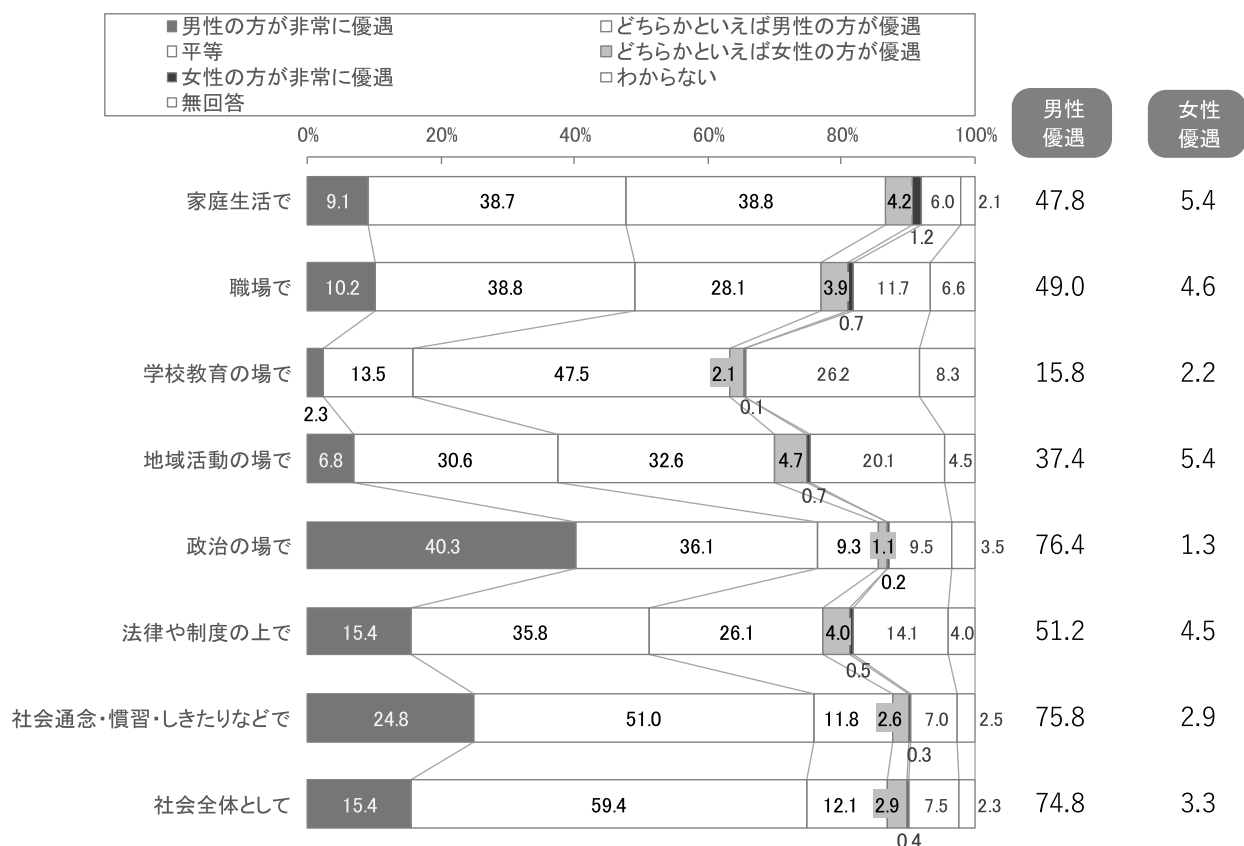
Ⅱ 調査結果

1. 男女共同参画について

(1) 男女平等に関する評価

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに近いものをお答えください。（項目ごとに〇は1つずつ）

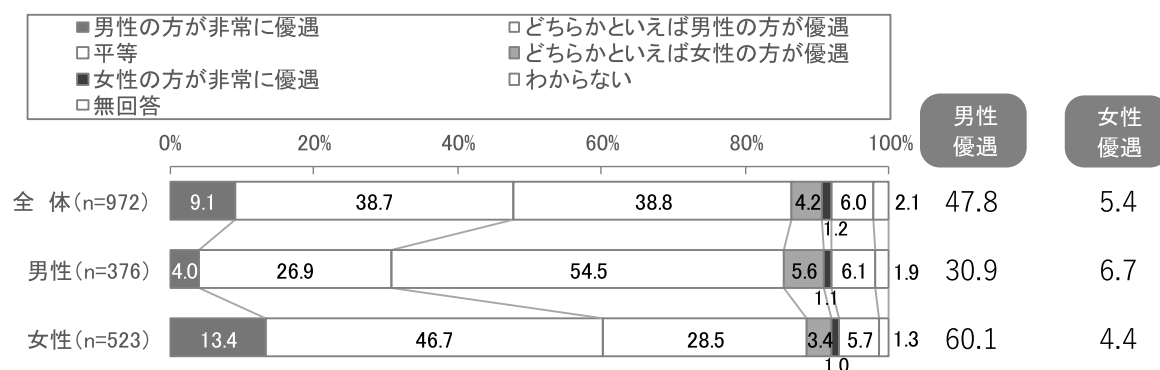
全 体 (n=972)



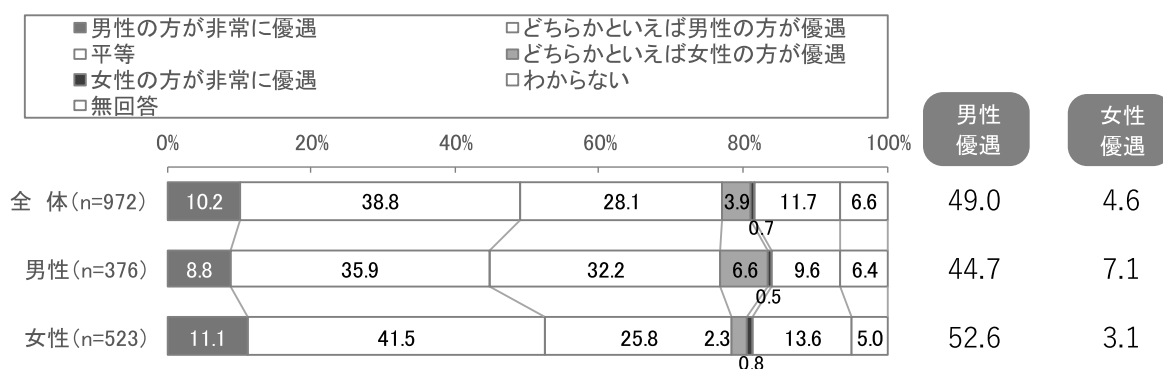
各場面における男女平等に関する評価をみると、「平等」と回答した人の割合が最も高いのは「学校教育の場で」の47.5%だった。その他の場面においては、「男性優遇」が「女性優遇」を大きく上回り、特に「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体として」で約7割が「男性優遇」と回答している。

性別でみると、各場面ともに男性よりも女性において「男性優遇」とみる割合が高い。

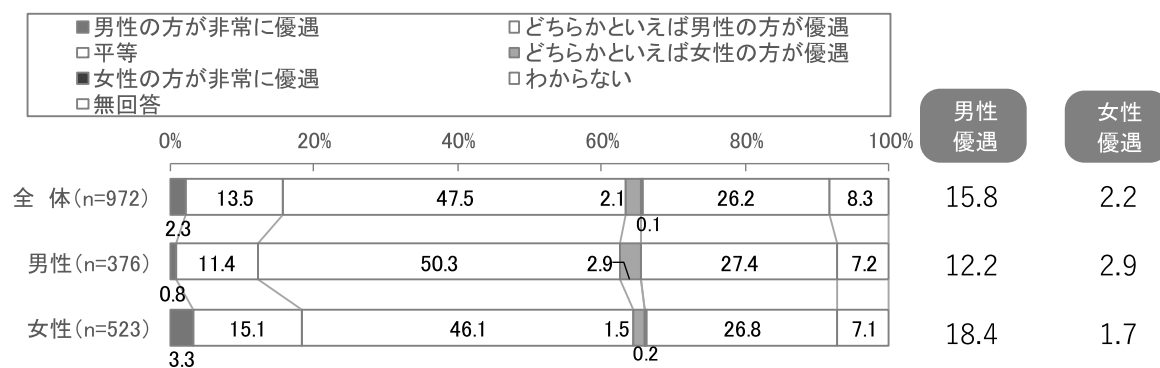
【家庭生活で】



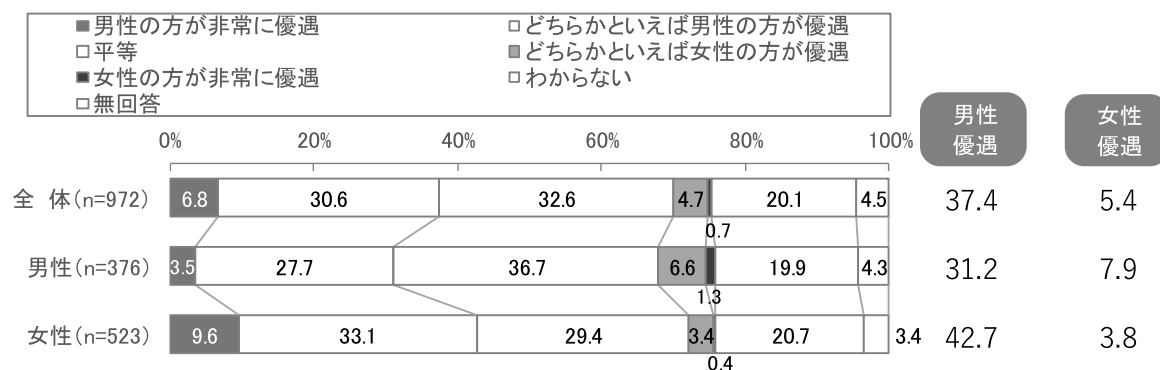
【職場で】



【学校教育の場で】

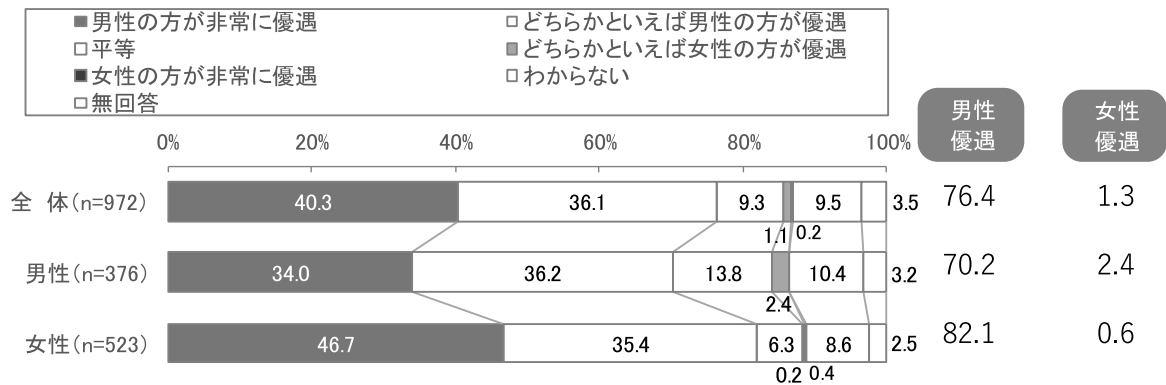


【地域活動の場で】

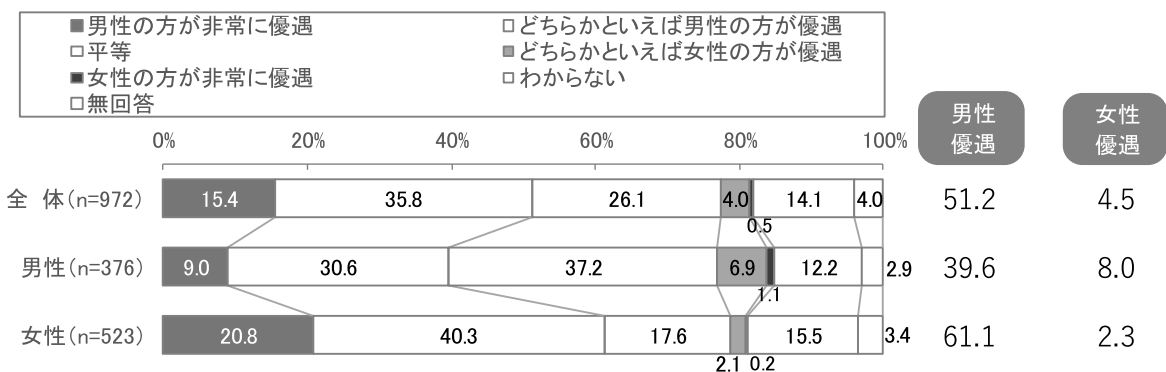


概要版

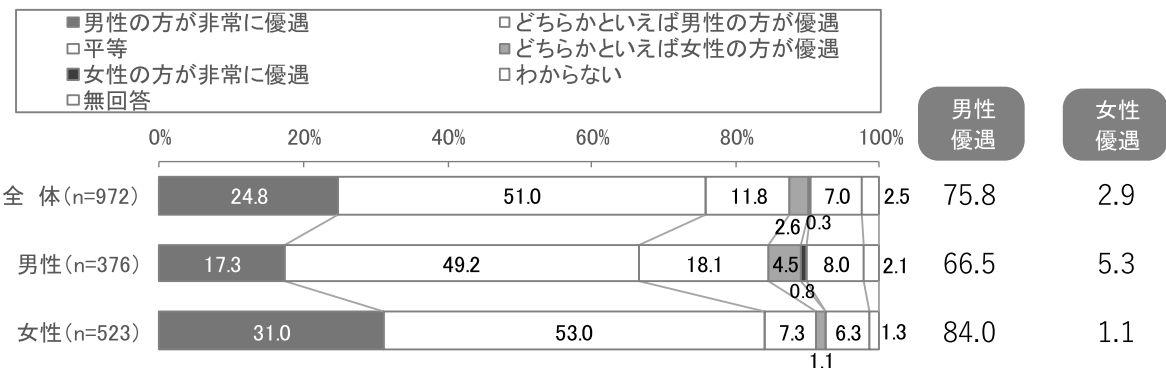
【政治の場で】



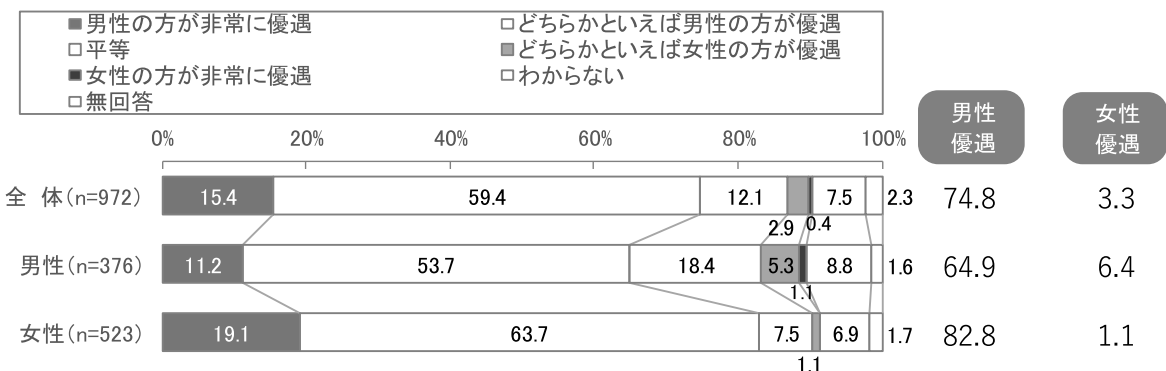
【法律や制度の上で】



【社会通念・慣習・しきたりなどで】

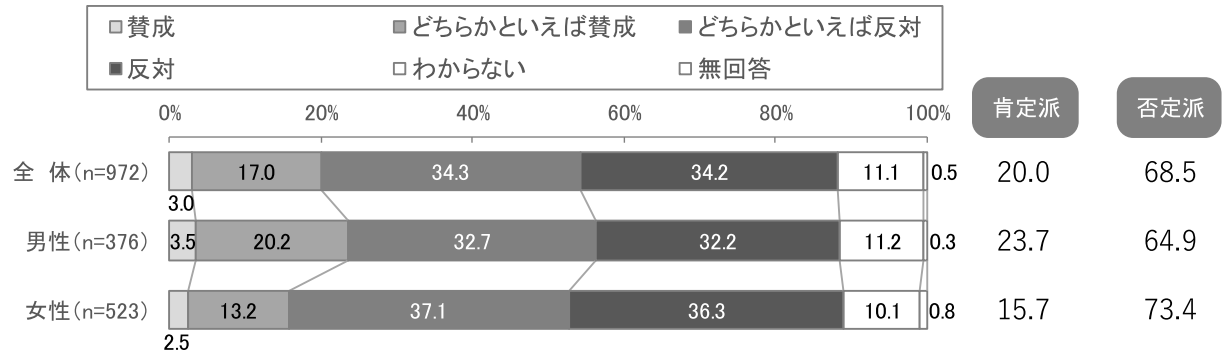


【社会全体として】



(2) 男女の役割を分ける固定的な考え方

問2 あなたは「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような男女の役割を分けて固定的に考えることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)



男女の役割を固定的に考えることについては、全体で「賛成」が 3.0%、「どちらかといえば賛成」が 17.0%と、肯定派は 20.0%となった。一方、「反対」が 34.2%、「どちらかといえば反対」が 34.3%と、否定派は 68.5%で過半数となっている。

性別でみると、男性では女性よりも肯定派の割合が高くなっている。

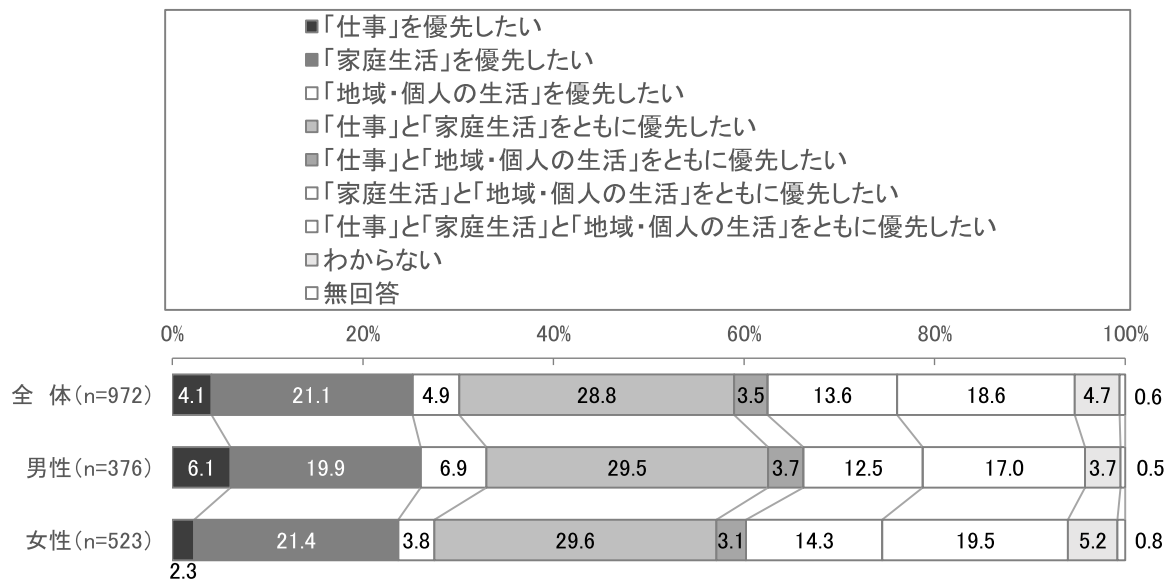
(3) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問3-1 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

あなたの希望に最も近いものをこの中からお答えください。(○は1つ)

問3-2 それではあなたの現実・現状に最も近いものをこの中からお答えください。(○は1つ)

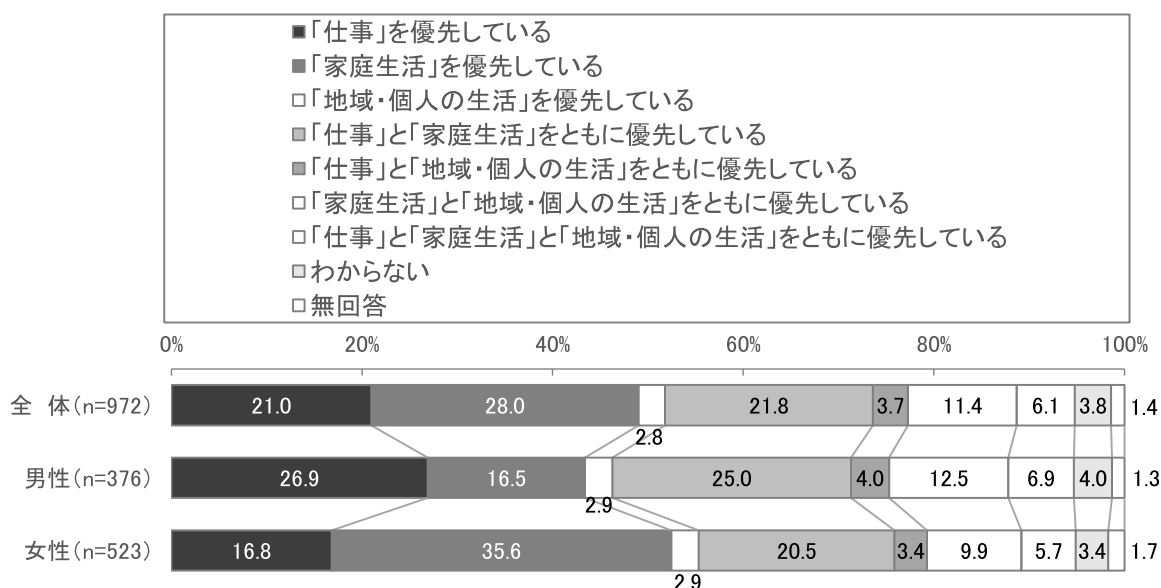
【希望優先度】



全体では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も多く28.8%、次いで『「家庭生活」を優先したい』が21.1%、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』が18.6%の順となっている。

性別でみても、優先度の希望は全体と同様で、男女間の大きな差は見られない。

【現実・現状】



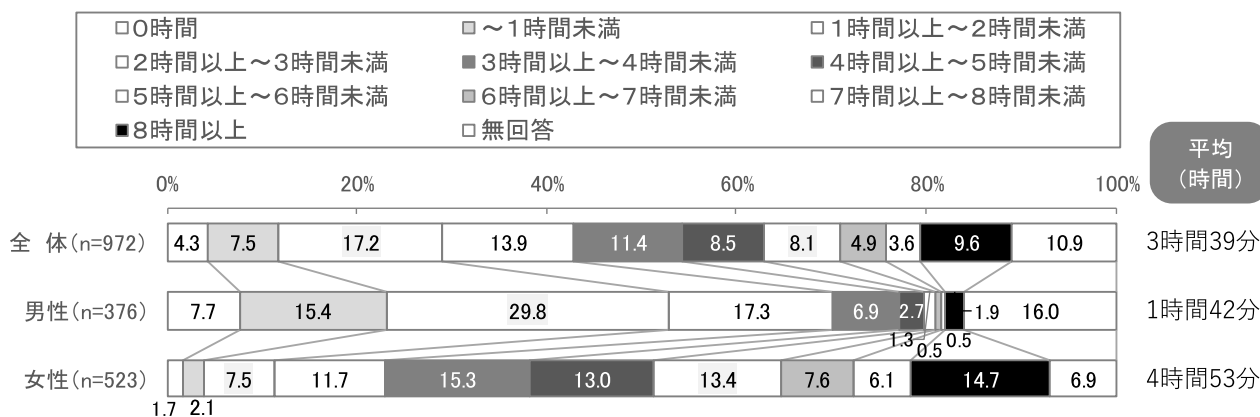
一方、現実・現状については、全体で『「家庭生活」を優先している』28.0%が最も多く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』21.8%、僅差で『「仕事」を優先している』21.0%が並んでいる。

男性では『「仕事」を優先している』が26.9%で最も多く、女性では『「家庭生活」を優先している』が35.6%で最も多くなっており、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」を優先している現状がうかがえる。

(4) 家事・仕事の時間

問4 あなたが1日に行う家事（育児や介護を含む）の時間と、仕事（収入を得るための労働）の時間は、それぞれ平均どの位ですか。（数値を記入）

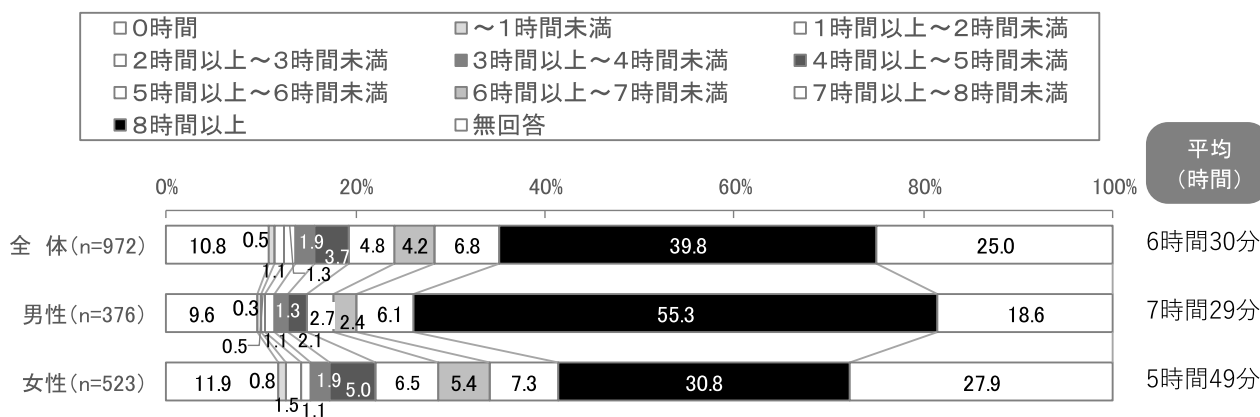
【家事の時間】 ※平均時間は、「無回答」を除いた平均値



1日あたりの「家事の時間」については、全体では「1時間以上～2時間未満」が 17.2%と最も高く、「無回答」を除いた平均時間は3時間 39 分となった。

性別でみると、男性では「1時間以上～2時間未満」が 29.8%と最も高く、平均時間は1時間 42 分、「2時間未満」が男性全体の5割を占める。女性では「3時間以上～4時間未満」が 15.3%、次いで「8時間以上」が 14.7%、「4時間以上～5時間未満」が 13.0%と、平均時間は4時間 53 分となった。

【仕事の時間】 ※平均時間は、「無回答」を除いた平均値

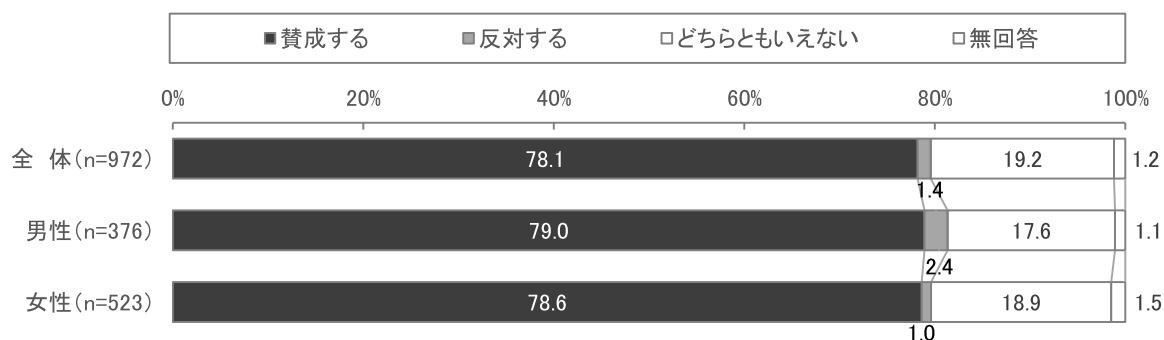


1日あたりの「仕事の時間」については、全体では「8時間以上」が 39.8%を占め、「無回答」を除いた平均時間は6時間 30 分となった。

性別でみると、男性では「8時間以上」が 55.3%、女性で 30.8%と、ともに「8時間以上」が最も多いが、平均時間は男性の7時間 29 分に対し、女性は5時間 49 分と、男性に比べて1時間 40 分短くなっている。

(5) 男性の「育児休業」「介護休業」取得についての考え

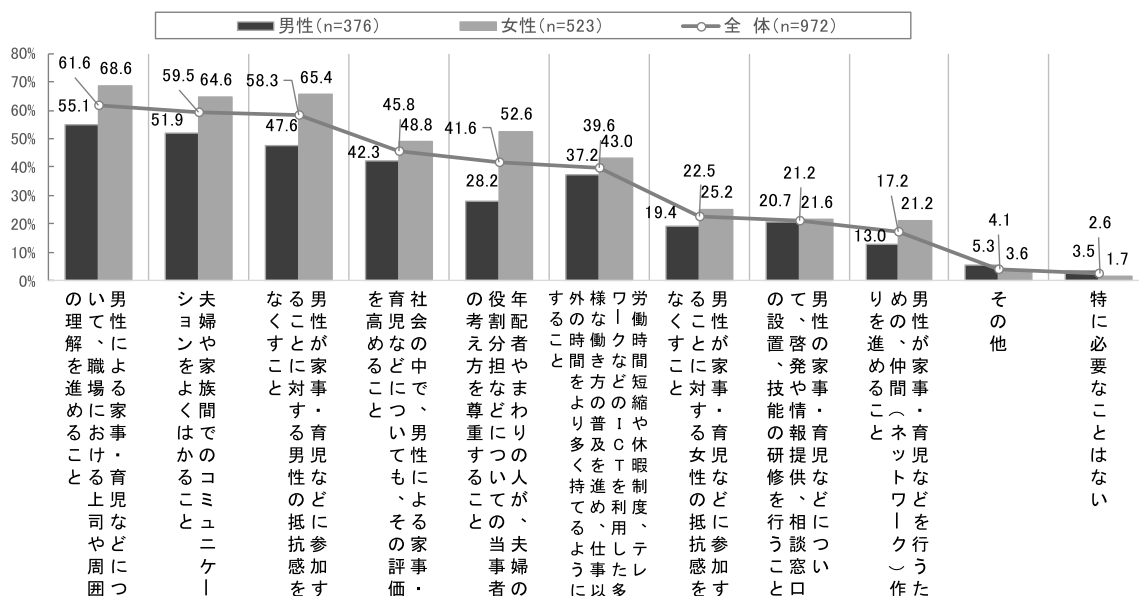
問5 男性が「育児休業」や「介護休業」を取得することについて、どう思いますか。
(○は1つ)



男性の「育児休業」「介護休業」取得については、全体で「賛成」78.1%、「反対」1.4%、「どちらともいえない」19.2%だった。男女間では、特に大きな差はみられない。

(6) 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくための考え

問6 今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

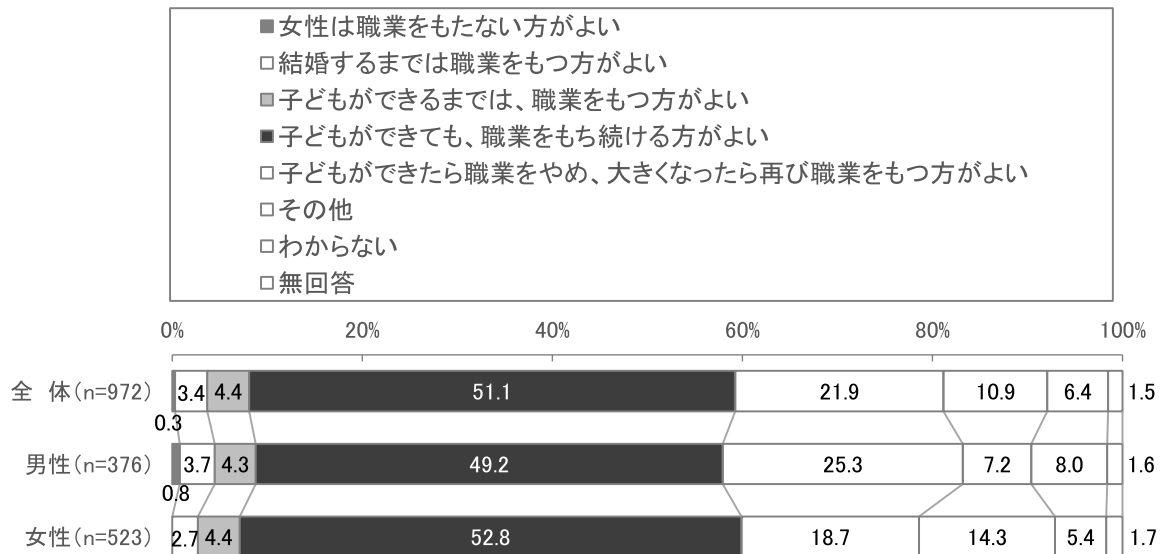


男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「職場の上司・周囲の理解を進めること」61.6%、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」59.5%、「男性の抵抗感をなくすること」58.3%、「社会の中で男性による家事・育児などの評価を高めること」45.8%が上位となった。

男女ともに「職場・周囲の理解を進めること」はトップの項目と挙げられている。全体的に女性が男性の割合を上回っているが、特に「年配者やまわりの人が当事者の考え方を尊重すること」「男性の抵抗感をなくすること」については男女間の差が15ポイント以上と大きくなっている。

(7) 女性が職業をもつことについての考え

問7 一般的に女性が職業をもつことについて、どう考えますか。(○は1つ)

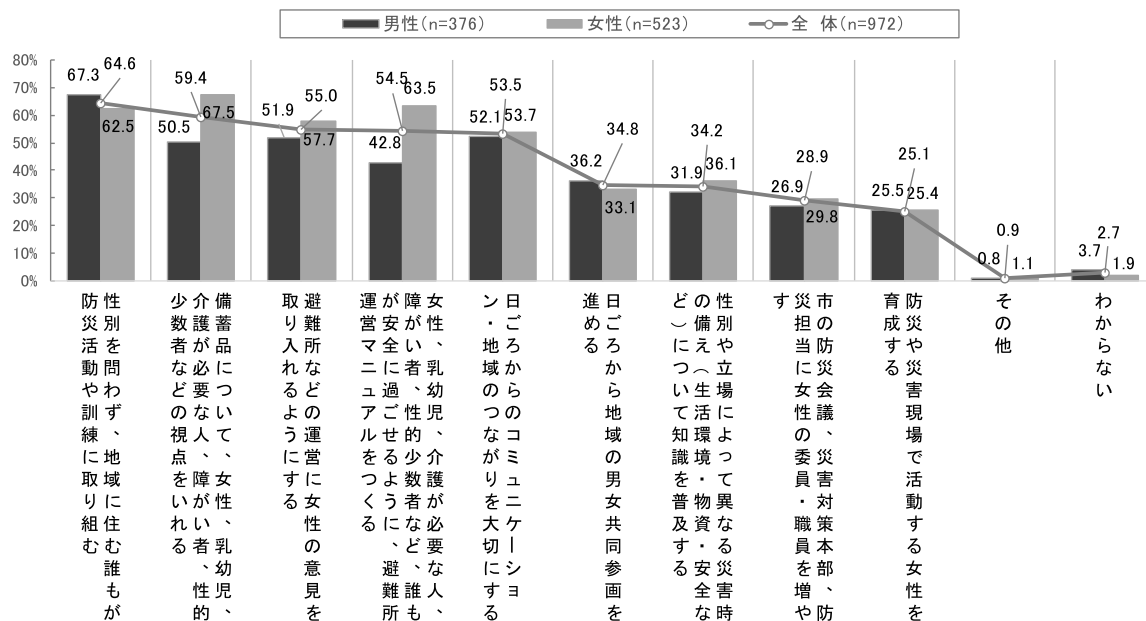


女性が職業をもつことについて、全体では「子どもができて、職業をもち続ける方がよい」51.1%、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」21.9%の順となっている。

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は男女とも5割を占めている。

(8) 男女共同参画の視点での災害時の備えに必要な施策

問8 東日本大震災や熊本地震などの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。
災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

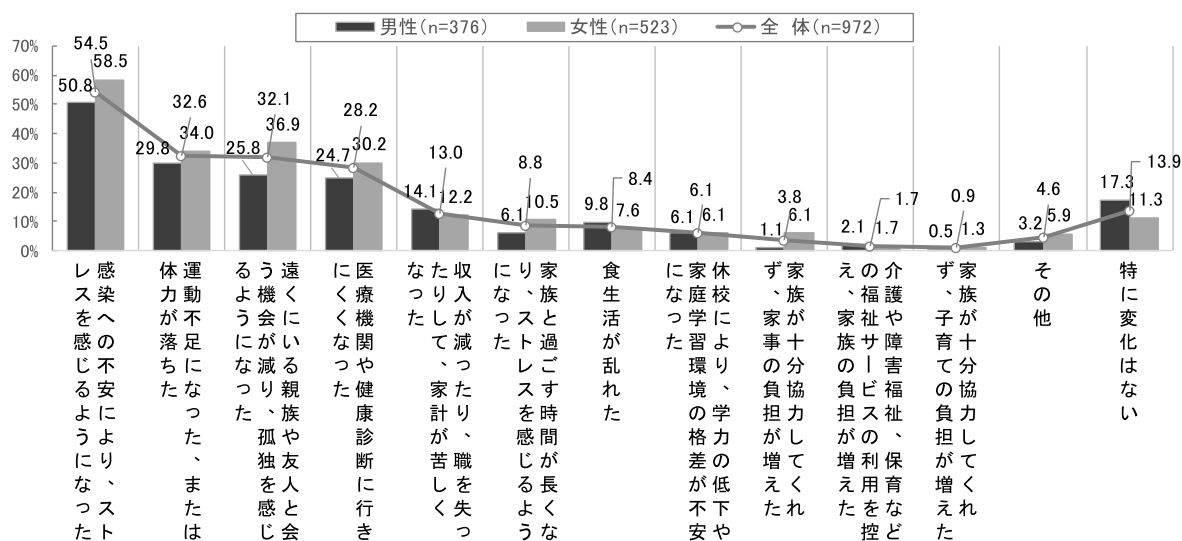


男女共同参画の視点での災害時への備えに必要な施策について、全体では「性別を問わず防災活動や訓練に取り組む」64.6%、「備蓄品について女性、介護が必要な人などの視点をいれる」59.4%、「避難所などの運営に女性の意見を取り入れる」55.0%が上位となった。

「備蓄品について女性、介護が必要な人などの視点をいれる」「誰もが安全に過ごせるように避難所運営マニュアルをつくる」は女性の割合が高い項目となっている。

(9) コロナ禍以前と比べての変化

問9 コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化がありましたか。(〇はいくつでも)

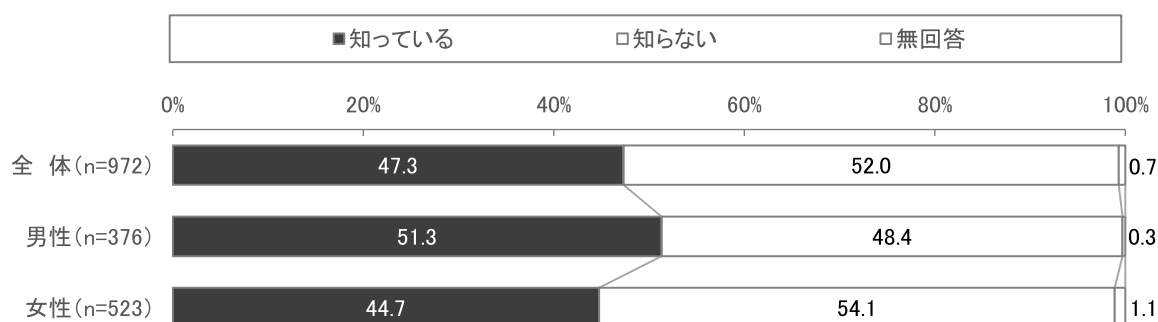


コロナ禍以前と比べての変化は、「感染への不安によりストレスを感じるようになった」が 54.5%で最も多く、次いで「運動不足、体力低下」が 32.6%、「親族や友人と会う機会が減り、孤独」32.1%、「医療機関等に行きにくくなった」28.2%などが上位4項目となっている。

性別でみると、上位4項目ではいずれも女性の割合が、男性を上回っている。「収入が減ったりして家計が苦しくなった」、「特に変化はない」の回答では男性の割合が女性よりも高くなっている。

(10) ジェンダー・ギャップ指数の認知状況

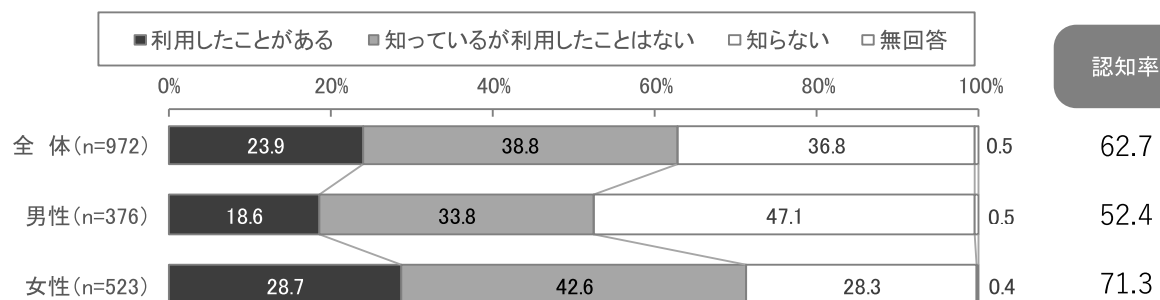
問10 あなたは、世界経済フォーラムが、社会における男女格差の大きさを国別に比較した「ジェンダー・ギャップ指数 2021」で、日本が世界 156 カ国中の 120 位（主要 7 か国中最下位）であったことを知っていますか（格差が少ないほど順位が高くなります）。



ジェンダー・ギャップ指数の認知状況については、全体で「知っている」と回答した割合は 47.3%だった。性別でみると、男性で 51.3%、女性で 44.7%と、男性が女性を上回っている。

(11) 「静岡市女性会館（アイセル21）」の認知・利用状況

問11 静岡市の男女共同参画推進の拠点施設「静岡市女性会館（アイセル21）」を利用したことがありますか。（〇は1つ）

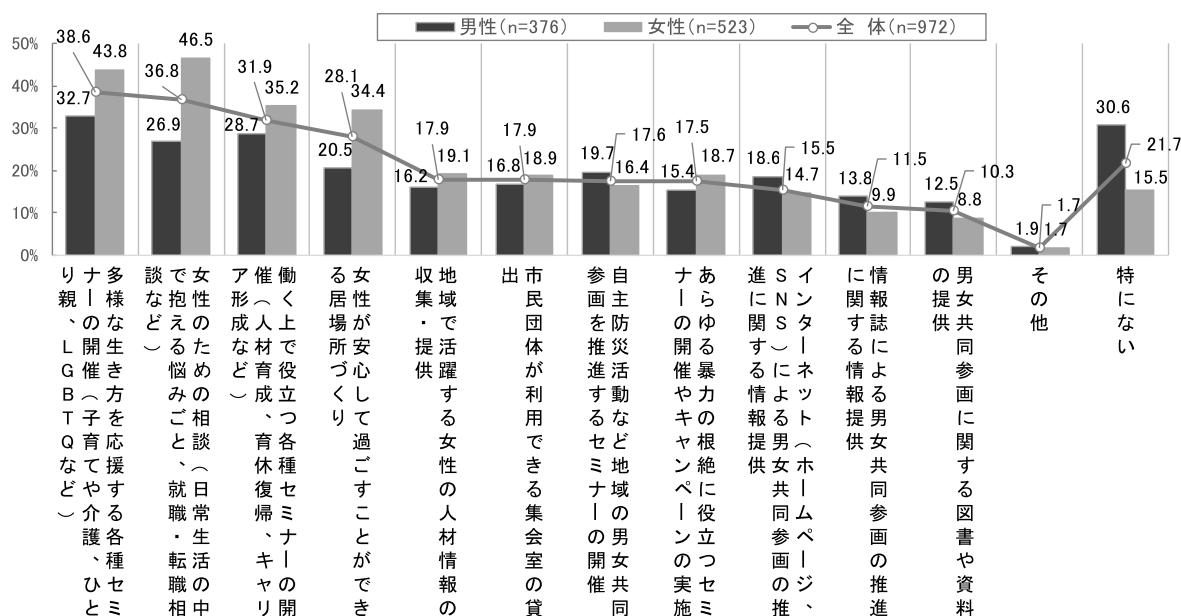


「静岡市女性会館（アイセル21）」の認知・利用状況について、全体では「利用したことがある」23.9%、「知っているが利用したことはない」38.8%で、2つを合わせた認知率は62.7%であった。

性別でみると、利用率は男性で18.6%、女性で28.7%、認知率は男性で52.4%、女性で71.3%と、いずれも女性が男性を上回っている。

(12) 「静岡市女性会館（アイセル21）」に期待する役割

問12 あなたは「静岡市女性会館（アイセル21）」に、どのような役割を期待しますか。（〇はいくつでも）

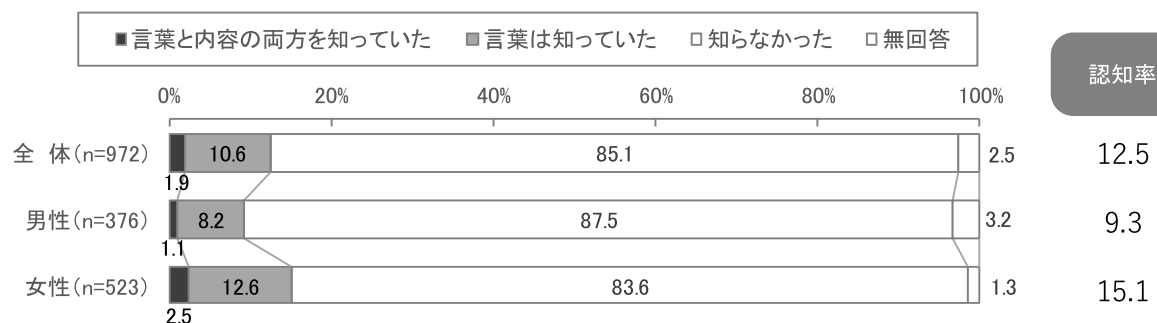


「静岡市女性会館（アイセル21）」に期待する役割について、全体では「多様な生き方を応援する各種セミナーの開催」38.6%、「女性のための相談」36.8%、「働く上で役立つ各種セミナーの開催」31.9%が上位となっている。

性別でみると、トップ3は男女ともに同じ項目となっているが、特に女性では「女性のための相談」が46.5%で第1位となっている。

(13) 「しずおか女子きらっ☆プロジェクト」の認知度

問 13 あなたは、静岡市が「女性の活躍したい希望がかなうまち」の実現に向け、「しずおか女子きらっ☆プロジェクト」に取り組んでいることをどの程度知っていましたか。
(○は1つ)

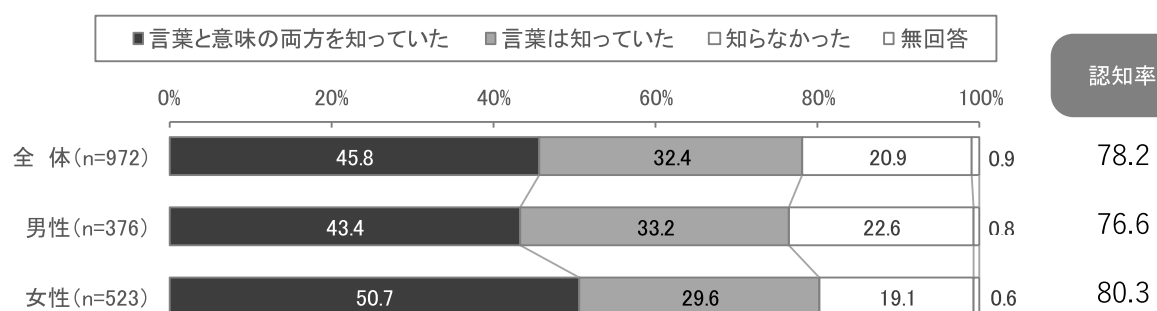


「しずおか女子きらっ☆プロジェクト」の認知状況は、全体では「知らなかった」が 85.1%と多数派を占めた。「言葉と内容の両方を知っていた」は 1.9%、「言葉は知っていた」は 10.6%で、認知率は 12.5%となっている。性別でみると、男性の認知率が 9.3%、女性の認知率は 15.1%と、女性でやや高くなっている。

2. 性の多様性について

(1) LGBTQなど性的少数者についての認知度

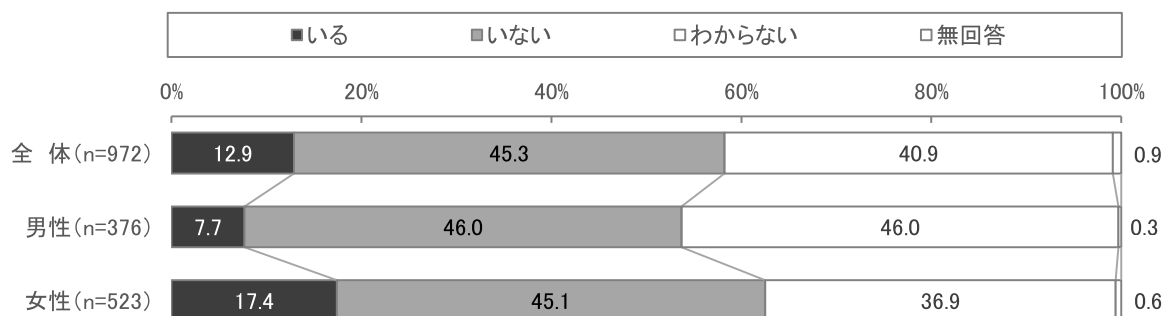
問 14 LGBTQなどの性的少数者について、どの程度知っていましたか。(○は1つ)



LGBTQなど性的少数者の認知状況について、「言葉と意味の両方を知っていた」と回答した人は全体の 45.8%、「言葉は知っている」は 32.4%で、2つを合わせた認知率は 78.2%だった。性別でみると、男性よりも女性で認知率がやや高くなっている。

(2) 周囲にLGBTQなどの性的少数者の方がいるか

問 15 あなたの周りにLGBTQなどの性的少数者の方はいますか。(○は1つ)

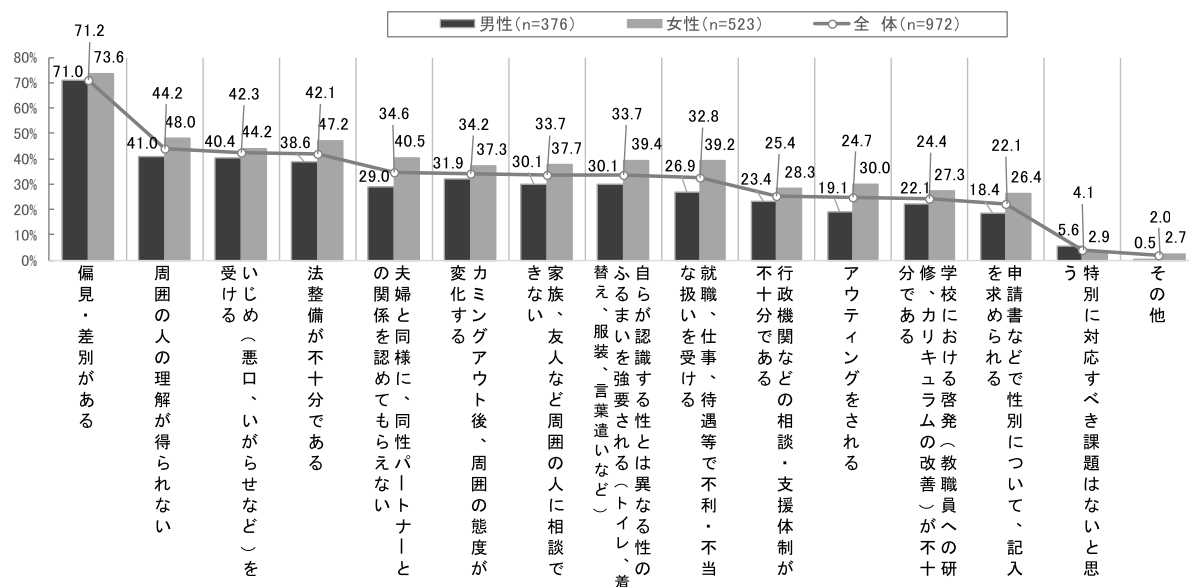


周囲にLGBTQなど性的少数者の方がいるかについて、「いる」と回答した人は全体の 12.9%、「いない」は 45.3%、「わからない」は 40.9%となった。

性別でみると、「いる」とした割合は男性で 7.7%、女性で 17.4%と、女性が高い割合となっている。

(3) LGBTQなどの性的少数者の方々が直面していると思われる困難・課題

問 16 LGBTQなどの性的少数者の方々が日常生活で直面している困難・課題だと思われるものを選んでください。(○はいくつでも)



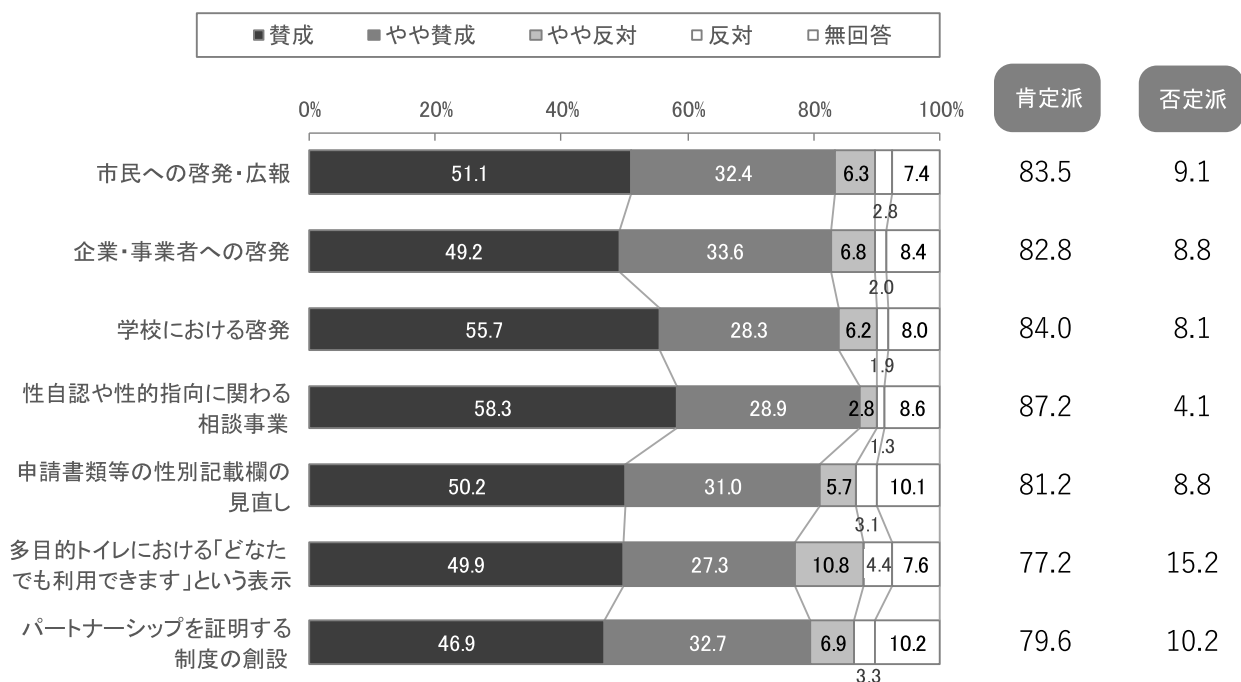
LGBTQ など性的少数者の方が直面していると思われる困難・課題について、全体では「偏見・差別がある」が 71.2%で最も高く、次いで「周囲の人の理解が得られない」が 44.2%、「いじめを受ける」が 42.3%で上位となっている。

性別でみると、女性では「特別に対応すべき課題はない」を除く全項目で男性よりも数値が高くなっている。

(4) 性的少数者の困難等解消のため、静岡市が取組等を行うことへの賛否

問 17 性的少数者の困難等の解消のため、静岡市が次のような取組等を行うことについて、あなたは賛成ですか、反対ですか。あなたの考えにもっとも近いと思うものをお答えください。
(項目ごとに○は1つ)

全 体 (n=972)

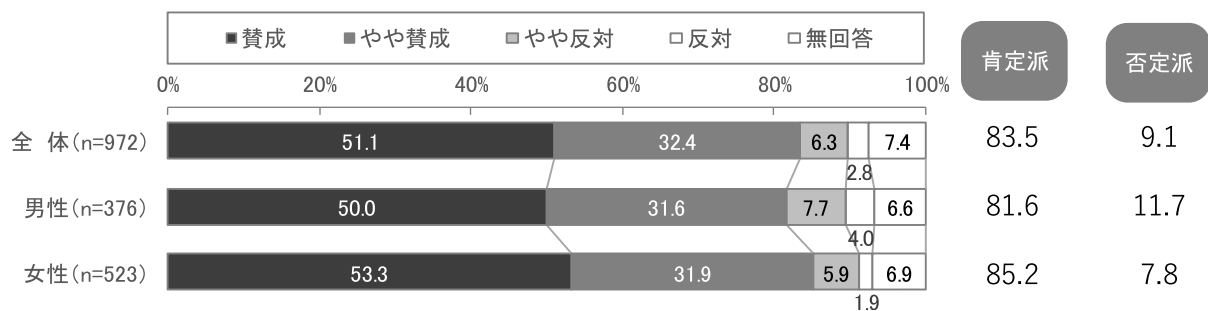


性的少数者の困難解消のため、静岡市が取組等を行うことについて賛否を尋ねた。いずれも「賛成」は4～5割台となっており、「やや賛成」を含めた肯定派は7～8割台を占めている。全体では「性自認や性的指向に関わる相談事業」について「賛成」が 58.3%で、肯定派が 87.2%で最も高かった。逆に「多目的トイレにおける『どなたでも利用できます』という表示」は「やや反対」10.8%、「反対」4.4%と、否定派が他より高くなっている。

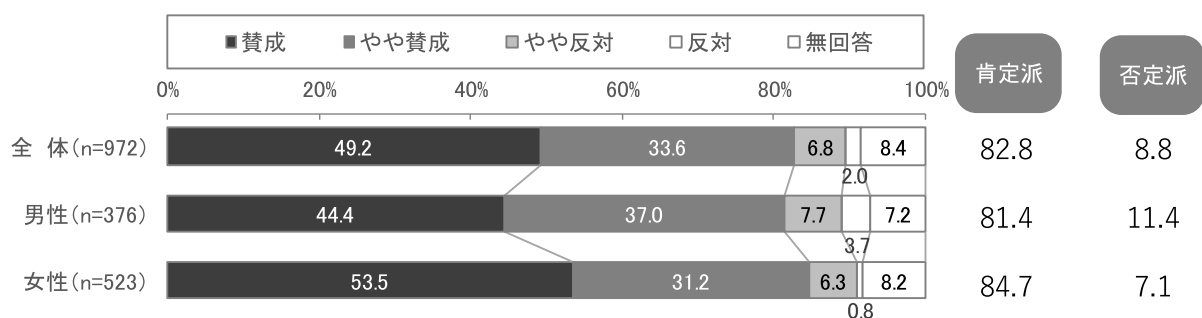
性別でみると、女性では「賛成」や肯定派はいずれも男性を上回っている。特に「申請書類等の性別記載欄の見直し」、「パートナーシップを証明する制度の創設」において、女性の「賛成」の数値は男性より10ポイント以上高くなっている。

概要版

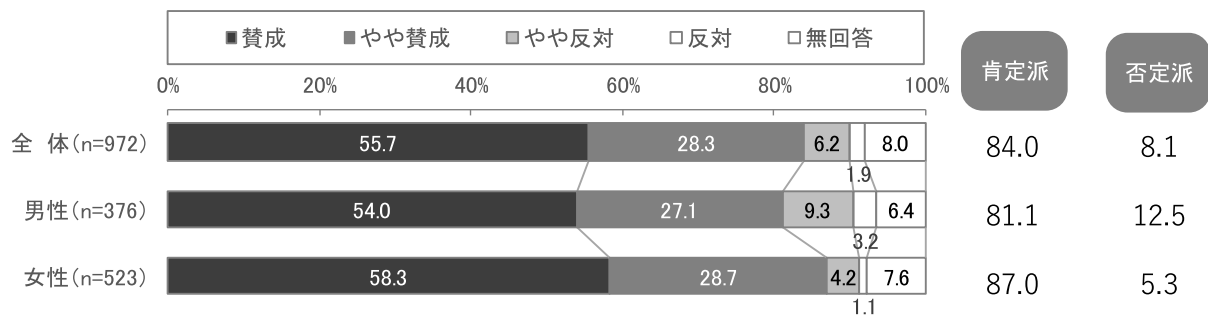
【性の多様性や性的少数者への差別の防止等についての市民への啓発・広報】



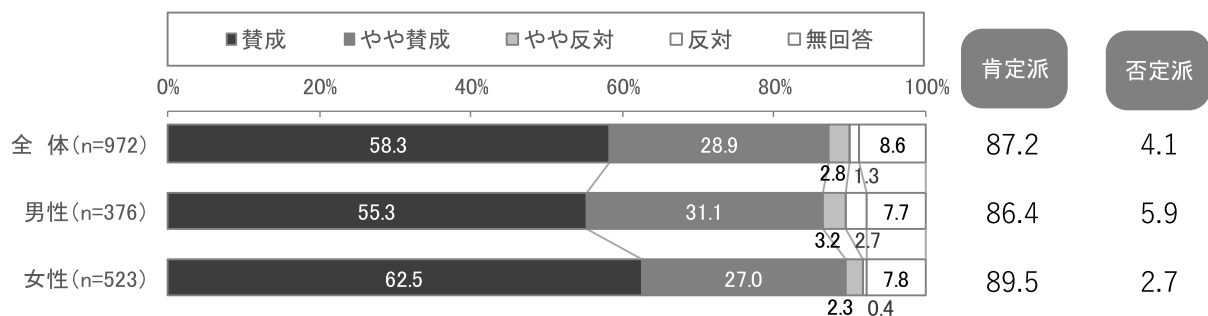
【企業向け手引きの提供・顕彰制度などによる企業・事業者への、性の多様性や性的少数者への差別の防止等についての啓発】



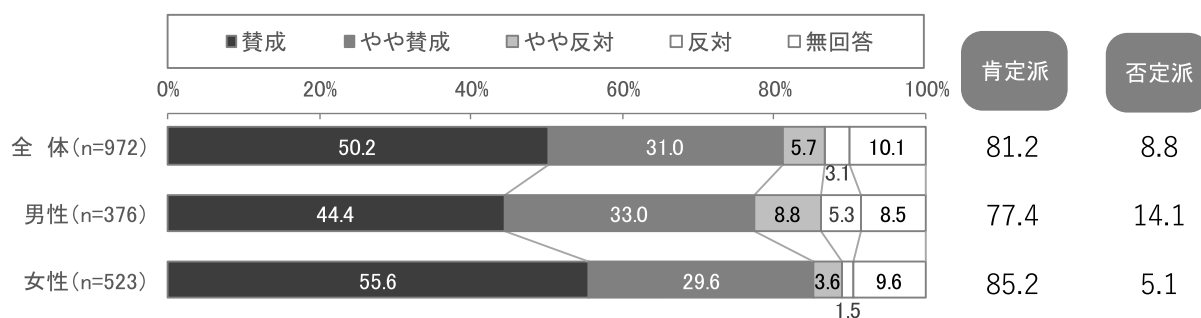
【学校における性の多様性や性的少数者への差別の防止等についての啓発】



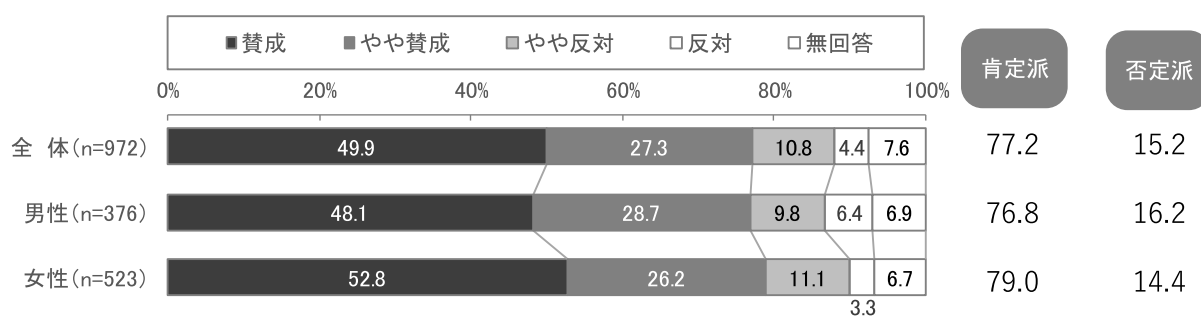
【性自認や性的指向に関わるさまざまな困り事や悩み事などに対する相談事業】



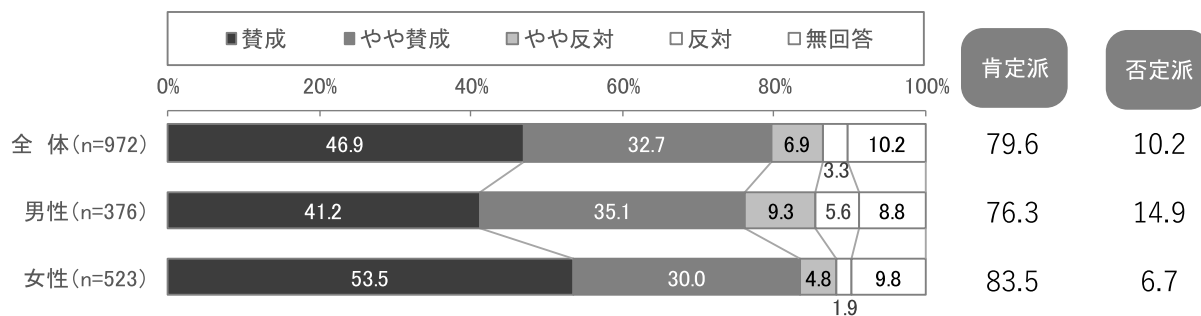
【性同一性障がいなどの性別違和の人に配慮した申請書類等の性別記載欄の見直し】



【多目的トイレにおける「どなたでも利用できます」という表示】



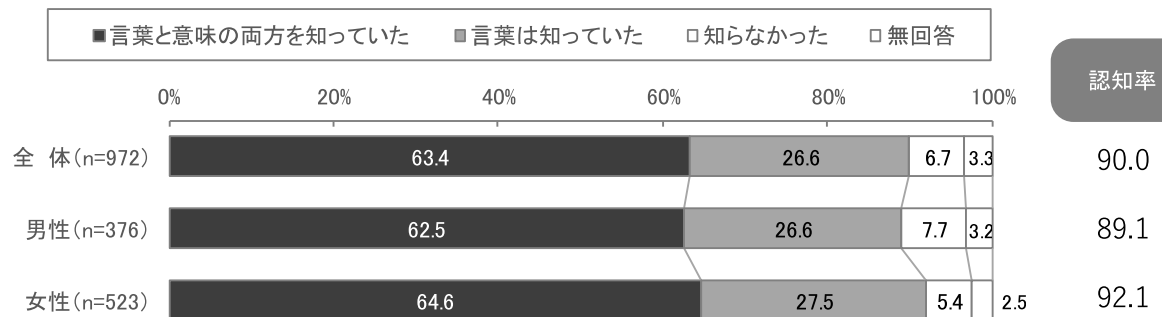
【パートナーシップを証明する制度の創設】



3. ドメスティックバイオレンス(DV)に関することについて

(1) 配偶者暴力防止法(DV防止法)の認知度

問 18 配偶者暴力防止法(DV防止法)についてどの程度知っていましたか。(○は1つ)



配偶者暴力防止法(DV防止法)の認知状況について、「言葉と意味の両方を知っている」と回答した人は全体の63.4%、「言葉は知っている」は26.6%で、2つを合わせた認知率は90.0%だった。

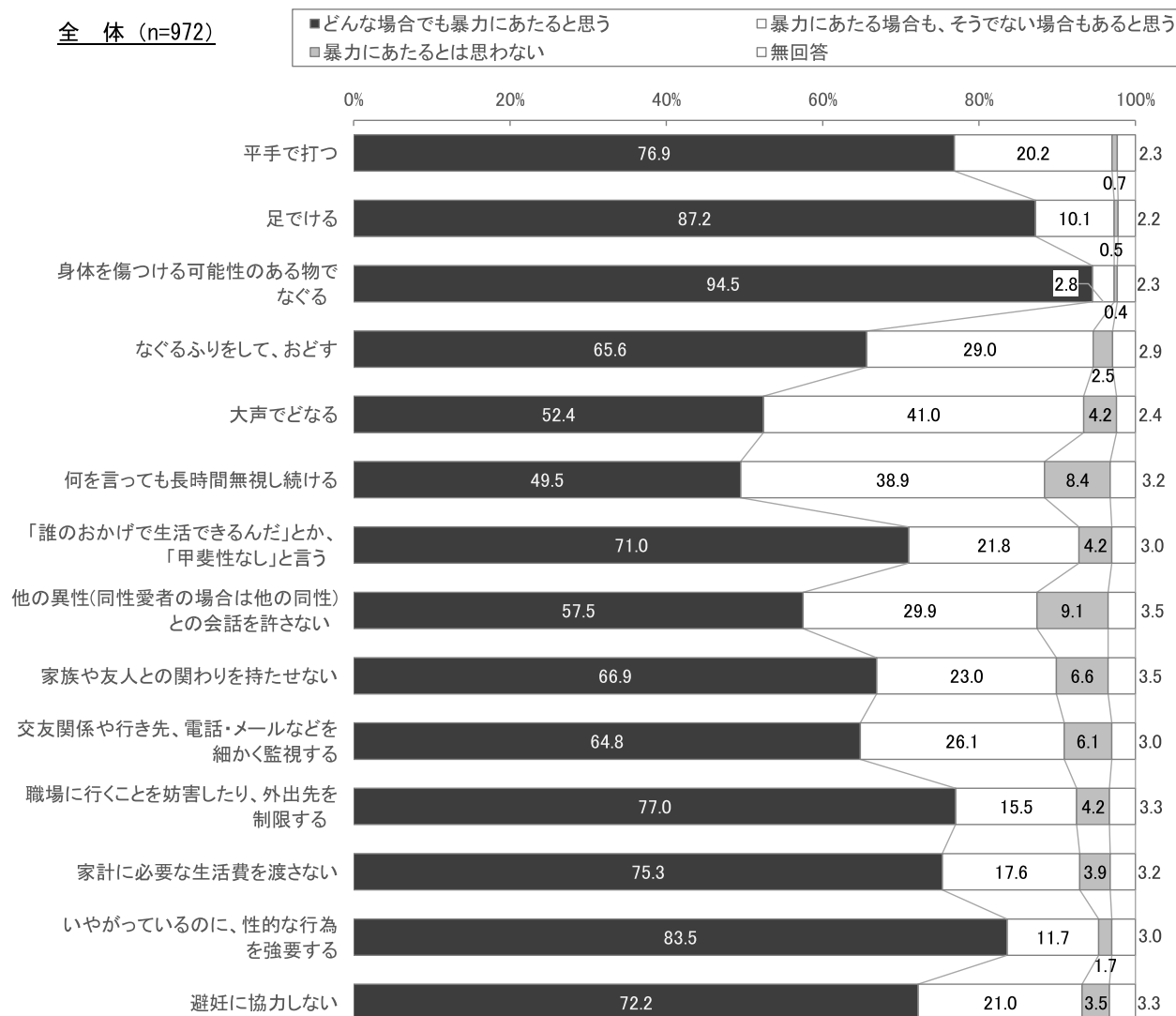
性別でみると、「言葉と意味の両方を知っている」は男性で62.5%、女性で64.6%と、女性の割合がやや高い。

(2) 配偶者間の暴力について

問 19 あなたは、次のようなことが配偶者間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
それぞれについて、あなたの考えに近いものをお答えください。

(項目ごとに○は1つずつ)

※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含みます。

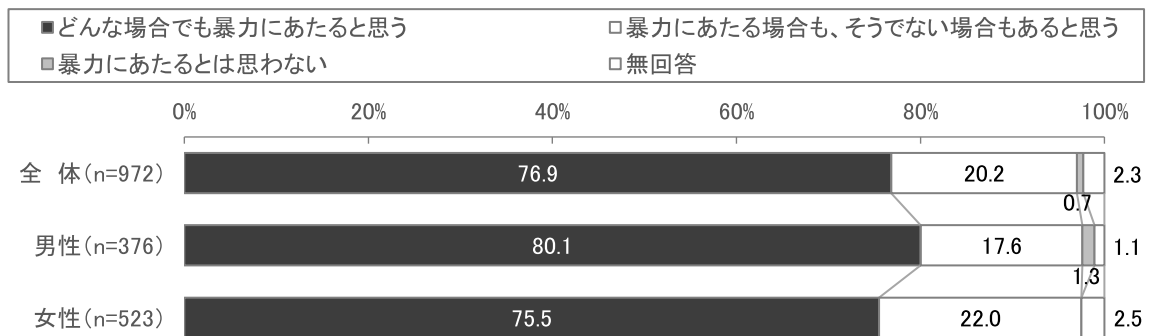


配偶者間の暴力について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合は、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」94.5%、「足でける」87.2%、「いやがっているのに、性的な行為を強要する」83.5%、「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」77.0%、「平手で打つ」76.9%などが高い項目となっている。

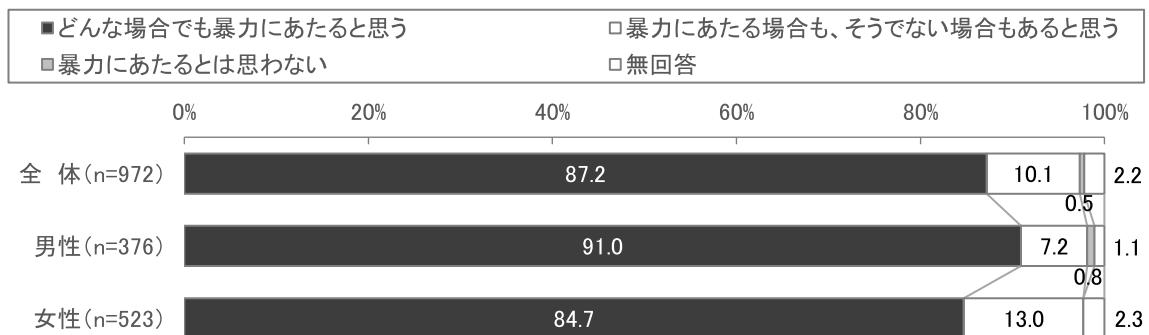
一方、「大声でどなる」「何を言っても長時間無視し続ける」「他の異性との会話を許さない」については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」との回答が6割未満とやや低く、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もある」が3～4割を占めている。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合について、「平手で打つ」「足でける」以外の項目は、女性の割合が男性の割合を上回り、特に「他の異性との会話を許さない」「家族や友人との関わりを持たせない」は男女間で10ポイント以上の差が生じている。

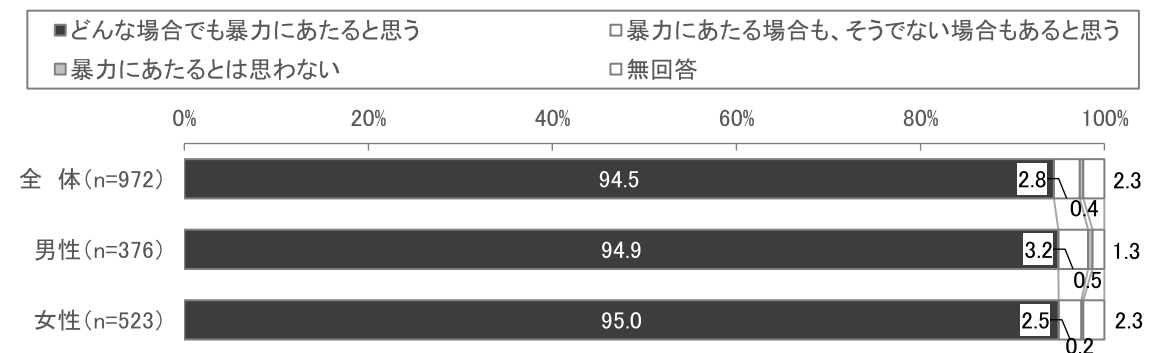
【平手で打つ】



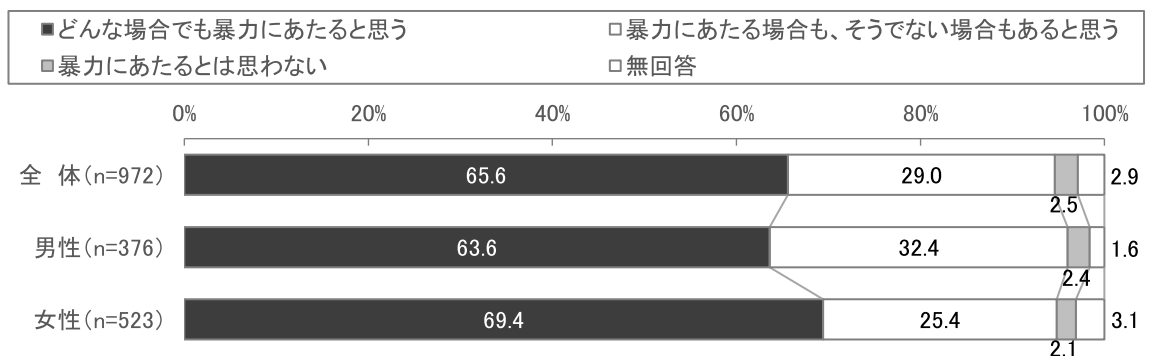
【足でける】



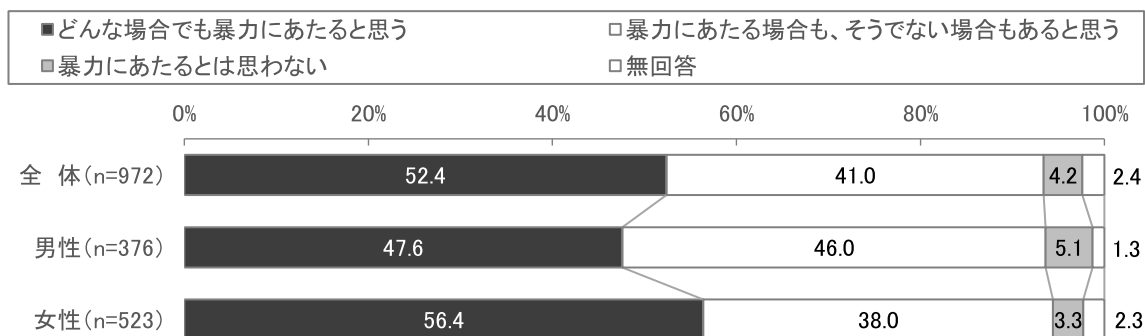
【身体を傷つける可能性のある物でなぐる】



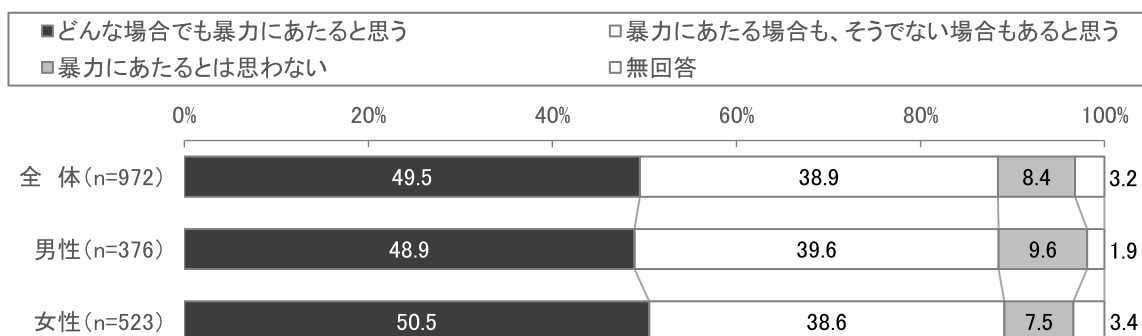
【なぐるふりをして、おどす】



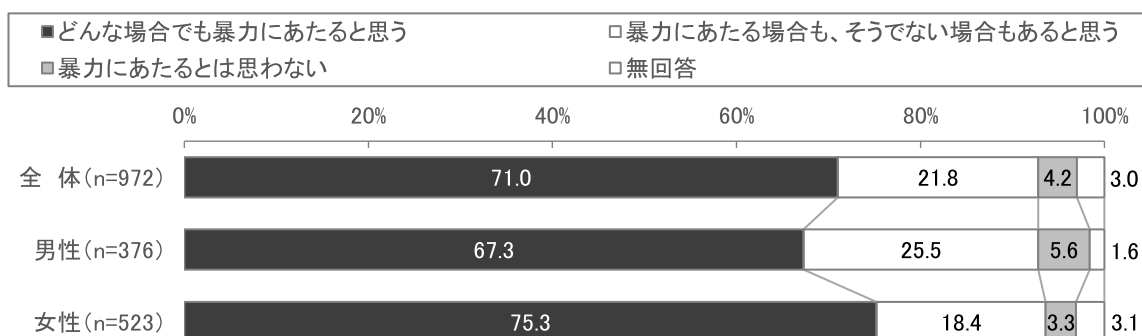
【大声でどなる】



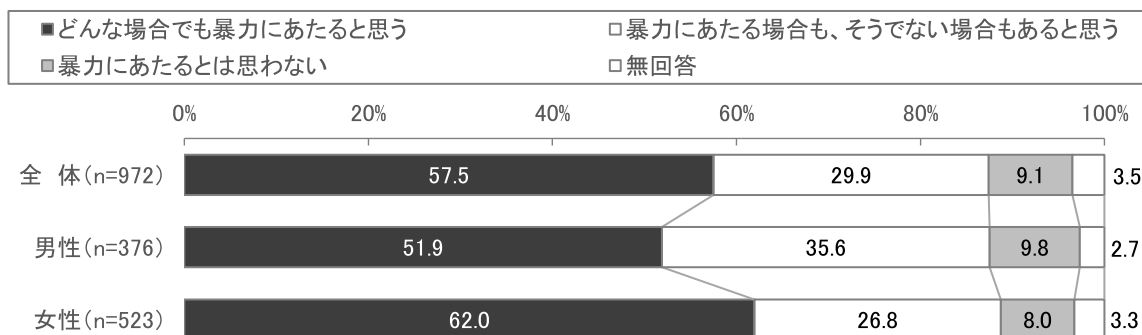
【何を言っても長時間無視し続ける】



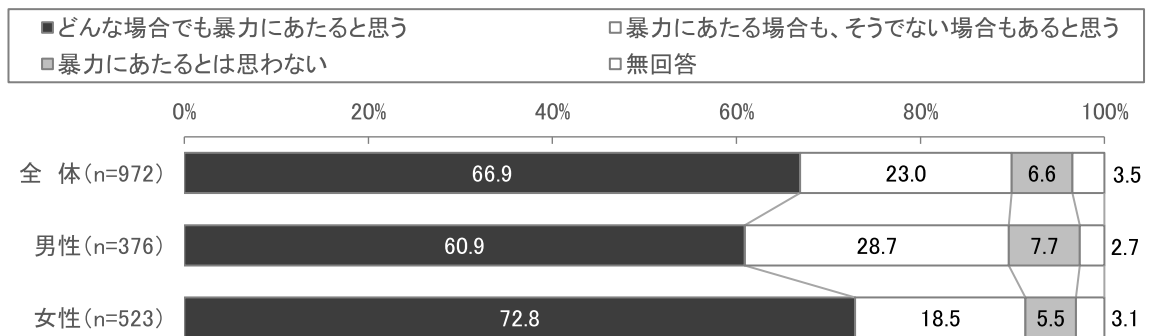
【「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性(かいしょう)なし」と言う】



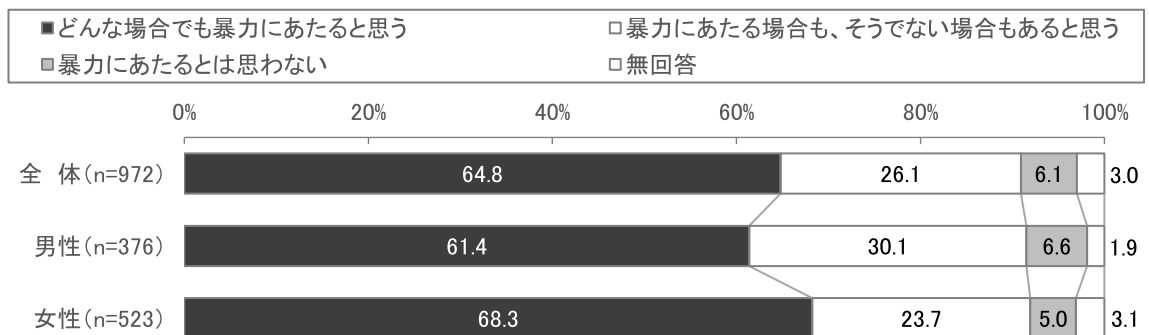
【他の異性(同性愛者の場合は他の同性)との会話を許さない】



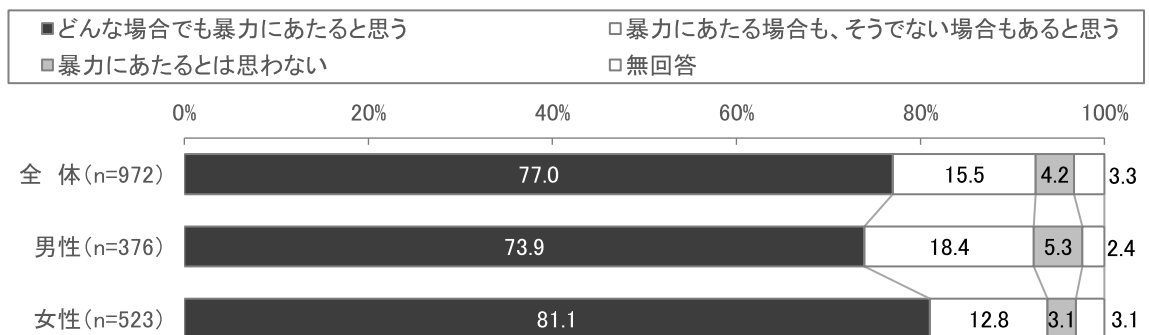
【家族や友人との関わりを持たせない】



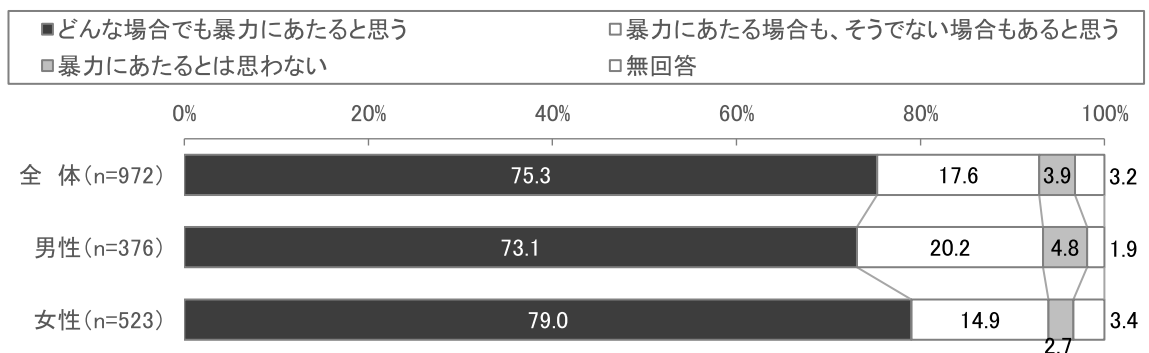
【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】



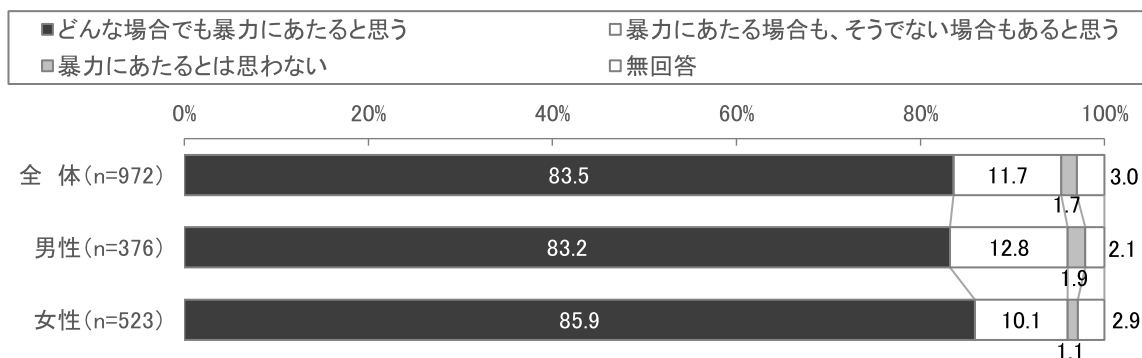
【職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】



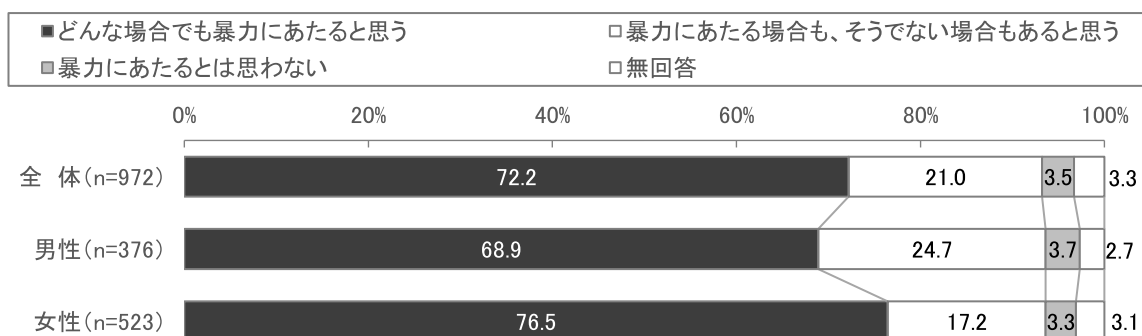
【家計に必要な生活費を渡さない】



【いやがっているのに、性的な行為を強要する】

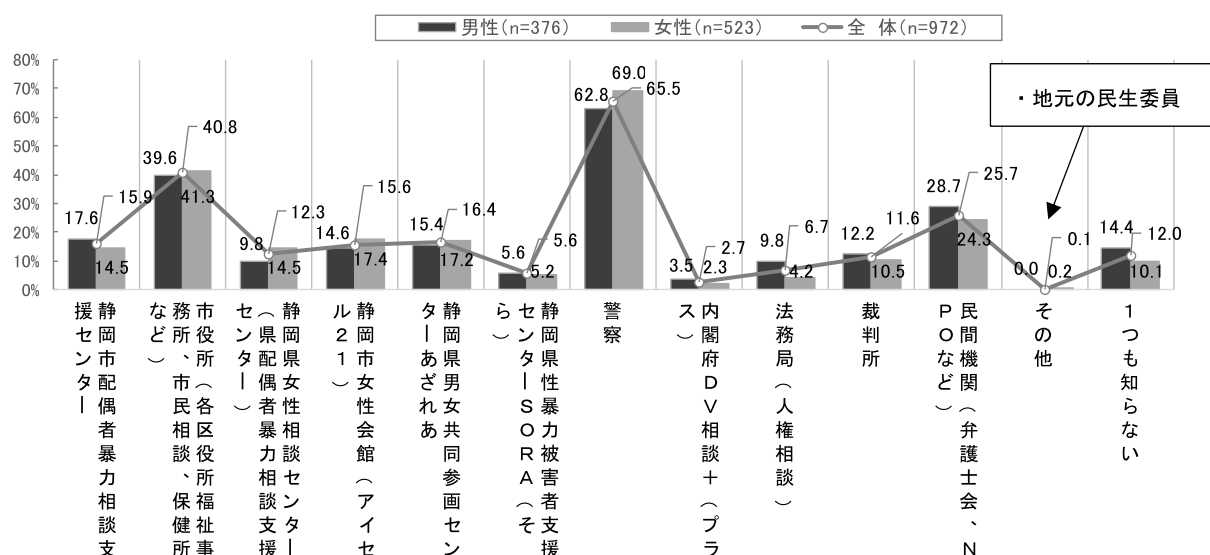


【避妊に協力しない】



(3) 配偶者からの暴力に関する相談窓口の認知度

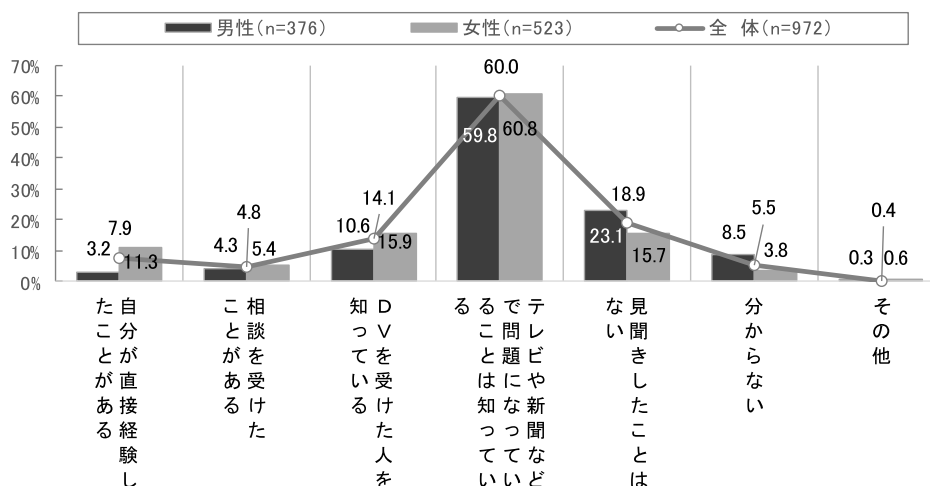
問 20 配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているものを教えてください。
(○はいくつでも) ※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含みます。



配偶者からの暴力に関する相談窓口として知っているものについて、全体では「警察」65.5%、「市役所」40.8%、「民間機関」25.7%が上位となった。

(4) ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験・見聞き

問 21-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人々からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。（〇はいくつでも）

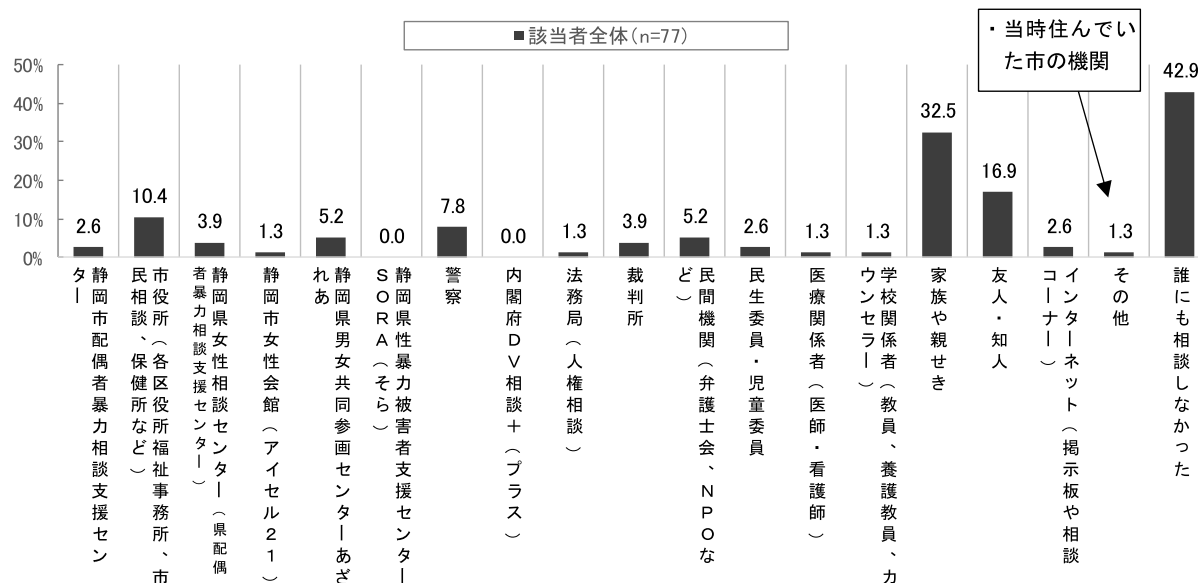


ドメスティックバイオレンス(DV)の経験・見聞きについて、全体では「自分が直接経験したことがある」が 7.9%、「相談を受けたことがある」が 4.8%、「DVを受けた人を知っている」が 14.1%となっている。「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 60.0%を占めた。

(5) ドメスティック・バイオレンス（DV）経験者の相談先

問 21-2 「1 自分が直接経験したことがある」と答えた方にお伺いします。
あなたは「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、どこかに相談しましたか。
（〇はいくつでも）

※前問 DVの経験・見聞きについて、「自分が直接経験したことがある」と回答した人



ドメスティック・バイオレンス(DV)経験者の相談先については、「誰にも相談しなかった」が 42.9%と最も高かった。次いで「家族や親せき」が 32.5%、「友人・知人」が 16.9%、「市役所」10.4%、「警察」7.8%の順となった。